

テーマ：家計調査（2008年10月）
～個人消費は低調に推移～

発表日：2008年11月28日（金）

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL：03-5221-4528
(%)

		実質消費支出 (二人以上世帯)		実質可処分所得 (勤労者世帯)		消費性向 (勤労者世帯)	
		前年比	前期比	前年比	前期比	季調値	前年差
08	1-3月期	0.6	0.7	▲ 1.7	▲ 1.7	74.2	3.0
	4-6月期	▲ 2.6	▲ 2.6	▲ 3.2	▲ 3.2	74.7	2.5
	7-9月期	▲ 2.3	▲ 2.2	▲ 1.6	▲ 1.6	73.7	▲ 0.8
07	9月	3.2	0.0	0.4	0.8	74.4	4.1
	10月	0.6	0.3	0.0	▲ 0.1	74.4	1.8
	11月	▲ 0.6	▲ 0.5	▲ 2.5	▲ 1.1	73.7	0.8
	12月	2.2	1.6	▲ 3.5	1.4	73.9	2.5
08	1月	3.6	2.5	▲ 2.8	▲ 2.6	77.6	5.1
	2月	0.0	▲ 2.9	▲ 1.1	3.0	72.8	1.8
	3月	▲ 1.6	▲ 2.2	▲ 0.9	0.1	72.3	0.7
	4月	▲ 2.7	▲ 0.7	▲ 5.5	▲ 6.0	76.4	4.4
	5月	▲ 3.2	▲ 0.9	0.2	6.1	72.6	▲ 1.0
	6月	▲ 1.8	1.5	▲ 4.3	▲ 2.8	75.2	2.4
	7月	▲ 0.5	0.9	▲ 3.9	▲ 0.7	75.7	2.6
	8月	▲ 4.0	▲ 3.4	2.2	4.9	71.0	▲ 4.4
	9月	▲ 2.3	1.7	▲ 3.3	▲ 4.8	74.3	▲ 0.1
	10月	▲ 3.8	▲ 1.4	0.3	3.7	69.6	▲ 5.2

(出所) 総務省「家計調査報告」

○ 10月の消費は弱め

10月の家計調査実質消費支出（二人以上世帯）は前年比▲3.8%（9月同▲2.3%）とマイナス幅が拡大し、ほぼコンセンサス（▲3.3%、レンジ：▲4.2%～▲2.4%）並みの結果だった。季節調整済み実質消費指数の前月比も▲1.4%と低下している。また、GDP個人消費の需要側推計値作成に際して控除される品目を取り除き、世帯人員を調整したベースで計算しても前年比▲1.8%（9月同+0.4%）と悪化している。

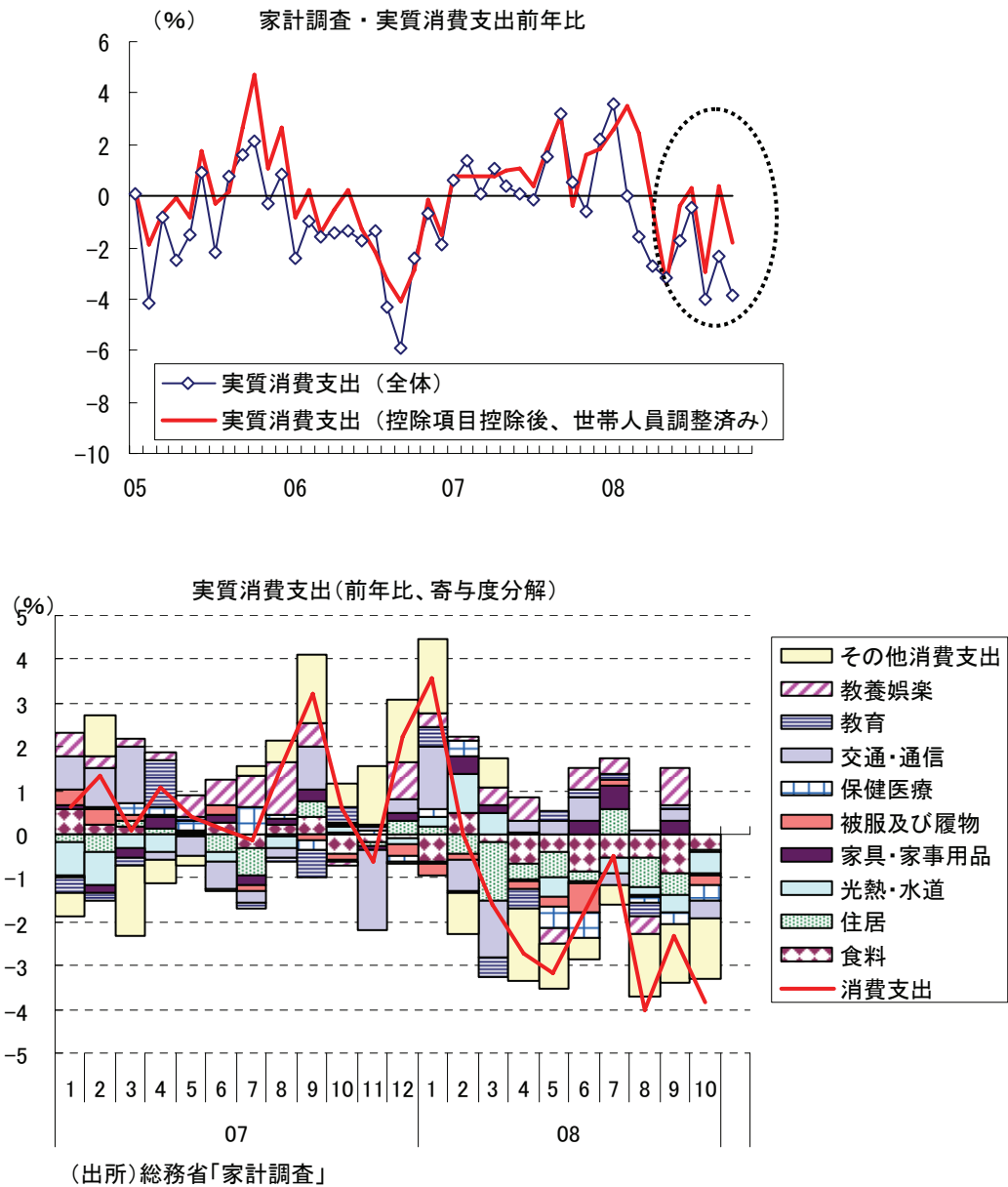
8月は月末が日曜日で金融機関が休みだったため、通信費等の口座引き落とし日が9月にずれ込んだこともあって9月の消費支出はやや強めとなっていたが、10月は再び減少した。10月の百貨店売上等の業界統計や景気ウォッチャー調査などは低調な結果に終わっており、10月の消費が悪化したことが示唆されていたが、そうした諸統計とも整合的な結果である。個人消費の基調は引き続き弱いと判断される。

○ 先行きも低調な推移を予想

先行きについても不透明感は強い。今後、景気が一段と落ち込むことを受けて、雇用環境の悪化や賃金の下落が予想されることに加え、9月末以降急激に進んだ株安が消費者心理を追加的に押し下げることで懸念されるなど、消費を取り巻く環境は厳しい。各種調査でも、ここに来て家計の消費意欲が一段と落ち込んでいるとの結果が示されており、下振れリスクに注意すべき状況である。原油価格の下落等を受けて消費者物価指数の上昇率が明確に鈍化し、物価面からの実質所得下押し圧力が和らぐことや、年度末に行われる予定の定額給付金の配布というプラス材料もあるため、個人消費が今後底割れする事態は避けられ

と考えるが、基調としては弱含み方向とみて良いだろう。

外需が急激に落ち込む可能性が高まっていることに加え、設備投資の減少ペースが加速する見込みであるなか、内需の柱の一つである個人消費に期待が持てないことは大きなマイナス材料である。下支え要因が不在のなか、今後の景気は悪化度合いが加速していくことが予想される。筆者は、08年10-12月期の実質GDPを前期比年率▲2.6%、09年1-3月期を同▲1.1%と、比較的慎重に予測していたが、このところの内外の経済指標の急激な悪化をみる限り、さらに下方修正する必要があるかもしれない。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。